



北区

面積 20.61km²
 世帯数 208,413世帯
 人口 358,516人
 (うち外国人) 27,964人
 予算 1,814億円
 職員数 2,875人



コミュニケーション・マーク
 花いっぱい元気な北区を象徴するマーク。「さくら」の花びらで「北区」のイニシャル「K」をデザインしている。



渋沢栄一(1840~1931)
 日本近代経済社会の基礎を築き、多くの株式会社を設立・育成するとともに、社会福祉や教育の発展、民間外交に尽力し、社会の繁栄と近代化をめざした。北区との関わりは、明治8(1875)年、王子に製紙工場を操業したことに遡る。明治12(1879)年に北区・飛鳥山に別荘として邸宅を構え、61歳から亡くなる91歳まで本邸として暮らした。



飛鳥山公園
 八代将軍徳川吉宗が1,270本もの桜の木を植え、庶民にはじめて「お花見」を開放した公園。

歴史・見所・名所

江戸時代の北区域は、飛鳥山の桜、滝野川の滝遊びと紅葉、さらに王子稲荷詣などで、変化に富んだ自然と豊かに広がる農村地帯、緑あふれるうるおいの場所として、四季を通じてたくさんの人々が訪れる行楽地でした。これらの名所は、浮世絵の画題として多く描かれており、当時の賑わいをうかがい知ることができます。

明治時代以降は軍施設や軍需工場が次々に設置され、軍都として栄える一方、田端周辺に小杉放庵、板谷波山らの芸術家や芥川龍之介、室生犀星らの文士が多く住まい、昭和初期まで続いた田端文士芸術家村が形づくられました。

現在、飛鳥山公園には国指定重要文化財である旧渋沢栄一郎の晩香廬と青淵文庫、渋沢史料館、北区飛鳥山博物館、洋紙発祥の地にちなむ紙の博物館が並び、西ヶ原のジョサイア・コンドル設計の建物とバラで名高い旧古河庭園とともに、多くの人が訪れています。また、軍の史跡でもある中央公園文化センターはその端正なたたずまいがロケーションスポットとして人気が高く、造兵廠レンガ倉庫は平成20(2008)年に北区立中央図書館としてよみがえるなど、歴史が今に息づいています。

概要

武蔵野台地の縁辺部から東京低地へと連続した地勢を有する北区は、荒川や石神井川などの4つの河川に恵まれた、緑豊かな自然が魅力のまちです。これら河川周辺は憩いの空間として整備されており、週末にはスポーツやレジャーを楽しむ多くの人々に賑わっています。

一方、J Rの駅が都内最多の11駅あり、加えて、地下鉄・都電が区内各所を走っているため、交通の利便性が抜群です。また、子どもが安心して遊べる公園が数多く設置され、商店街も活気があり、暮らしやすい環境がそろうています。

このような北区の持つ個性や魅力をわかりやすく演出し、そのイメージを形成するため、北区では「北区イメージ戦略ビジョン」に基づき、若手職員と地元大学生による活動、北区アンバサダー事業、内田康夫ミステリー文学賞などを実施しています。さらに、少子高齢化の進展や人口減少を見据え、通勤通学圏の子育てファミリー層・若年層の定住化や区民の地域に対する誇りや愛着の醸成を目的とした「北区シティプロモーション方針」を策定し、生活に便利なまち・住み心地のよいまち北区の、戦略的・効果的な情報発信にも力を入れています。

令和6(2024)年には、北区・飛鳥山に居を構えた渋沢栄一翁が新一万円札の顔となり、区内で盛り上がりを見せています。北区ではシビックプライドの醸成に向け、新紙幣発行後においても、引き続き、さまざまな事業を通じて渋沢翁の精神を伝える取組を継続して進めてまいります。

主要課題・将来展望

令和 5(2023)年 10 月に、おおむね 20 年後である令和 22(2040)年頃の北区のめざすべき将来像を提示するとともに、区政運営の基本となる考え方をまとめた北区基本構想を区議会の議決を経て策定しました。

【北区基本構想 めざすべき将来像】

ともにつくる だれもが住みよい 彩り豊かな躍動するまち 北区

この将来像を達成するため、区の施策や施策の方向を定めた、令和 6(2024)年～令和 15(2033)年度の 10 か年の長期総合計画、「北区基本計画 2024」を策定しました。

「北区基本計画 2024」では、基本構想で定めた将来像を達成するための 3 つの基本目標と基本構想を実現するための区政運営に加え、「みんなで創る。北区新時代」を北区の基本姿勢として位置付けたほか、7 つの主要政策を柱とした、北区が進むべき新たな方向性を示しています。

【基本目標】

- ・基本目標 1) 多様なつながりが織りなす にぎわいと活力にあふれたまち
- ・基本目標 2) 世代を超えて互いに成長し 自分らしく輝き 健やかに暮らせるまち
- ・基本目標 3) 安全・安心で 快適に暮らし続けられる 人と自然が調和したまち

【7 つの主要政策の位置付け】

人口減少や少子高齢化の進行、激甚化・頻発化する自然災害、地球温暖化、生物多様性の保全など地球環境問題の深刻化、多様な個性や指向、価値観を尊重した社会システムの確立、新しい技術の活用やデジタル化への対応など区を取り巻く課題は、複雑化、多様化しています。

こうした課題に効果的に対応するため、政策の枠を超えた分野横断的な取組が求められていることから、今後の区政において重点的、優先的に推進すべき分野横断的な政策展開の方向性を「主要政策」として設定しています。

- 1 区民サービス No.1 の行財政改革
- 2 子どもの幸せ No.1
- 3 つながる医療・福祉 No.1
- 4 経済と環境の好循環を地域力で創出
- 5 安全・安心 No.1 の防災と北区強靱化
- 6 100 年先を見据えたまちづくり！
- 7 文化・芸術・スポーツを区民目線で活性化！



北区立中央図書館

大正 8(1919)年に建設された赤レンガ倉庫(旧陸上自衛隊十条駐屯地 275 号棟)と新築部分を一体化した、愛称「赤レンガ図書館」。平成 21 年度グッドデザイン賞を受賞。



旧古河庭園

鹿鳴館の設計を手がけたジョシア・コンドルによる英国ルネサンス風の洋館と洋風庭園。京都の庭師・植治の手がけた日本庭園とが美しい調和を生み出している。



ふるさと北区 区民まつり

毎年秋に区内産業と文化の振興、ふるさと北区の実現をめざして、王子・赤羽・滝野川の 3 会場で開催。地元中学校の楽器演奏や踊りのステージがまつりを盛り上げ、ヒーローショーなどの子ども向けイベントや露店・地方物産展、フリーマーケットなど、多彩な催しを楽しむことができる。



田端文士村記念館

田端は、上野の東京美術学校(現・東京藝術大学)で学ぶ芸術家や、芥川龍之介・室生犀星を中心に文士が集ったことから、文士芸術家村となった。館内には、ゆかりの作品が展示され、当時を知ることができる。